

A-10 医療施設における在宅人工呼吸療法の現状 - 医療施設に対するアンケート調査より -

北里大学東病院MEセンター部¹⁾

北里大学医療衛生学部臨床工学²⁾

瓜生伸一¹⁾ 白井敦史¹⁾ 渡辺 敏¹⁾²⁾

今回我々は、(財)セコム科学技術振興財団よりの研究奨励金によって、在宅人工呼吸療法に関する基礎資料を得るために、実際に在宅人工呼吸療法を実施している医療施設に対しアンケート調査を実施したので報告する。

『対象および方法』

対象は、過去の学会などでの報告より在宅人工呼吸療法を実施していると思われる医療施設に対してアンケート用紙を送付し、調査を依頼した。回収は、46施設(回収率37.7%)から得られ、次のような結果が得られた。

『アンケート調査結果』

①在宅人工呼吸療法の疾患別分類では、回答が得られた46施設126名中、中枢神経疾患、筋萎縮性側索硬化症などを含む神経筋疾患が69.8%を占め、呼吸器疾患11.9%、脊椎疾患7.9%、肺胞低換気症候群6.3%、小児疾患3.2%となっている。

②在宅人工呼吸療法を実施している体制に関する設問では、一つの診療科で実施している医療施設が27施設(58.7%)でみられ、病院全体で実施しているのは15施設(32.6%)であった。

③在宅人工呼吸療法に参加している職種では、医師の場合全医療施設で参加しており、次いで看護婦(士)89.1%、保健婦41.3%、ソーシャルワーカー39.1%、理学療法士32.6%、臨床工学技士28.3%となっている。また、人工呼吸器メーカーの参加は60.9%と高い比率を示しており、平均参加職種は4.5職種であった。

④在宅人工呼吸療法開始後のフォロー体制では、定期的に訪問している医療施設が、34施設(73.9%)にみられたが、異常が起きたときのみ訪問している医療施設も2施設(4.3%)にみられた。

⑤在宅において人工呼吸器を使用する際の不安は、人工呼吸器に異常が起きないか、異常時に病院側として適切な対応ができるか、患者の病状に変化は起きないか、患者および人工呼吸器に目が届かないなどで78.3%の医療施設にみられた。

⑥在宅における人工呼吸器の保守点検実施者では、人工呼吸器メーカーが実施していると回答

している医療施設が、76.1%を占めている。

⑦在宅人工呼吸療法に関する人工呼吸器メーカーの関与では、メンテナンスすべてを依頼しているまたは24時間体制を依頼している医療施設が、それぞれ24施設(52.1%)、21施設(45.7%)みられた。この結果から、現在の在宅人工呼吸療法における人工呼吸器の保守管理に関しては、人工呼吸器メーカーに依存している部分が多いように思われた。

⑧現在使用中の在宅用人工呼吸器に関しては、大きい(重い)、騒音が大きい、機能がよくないなどで、50.0%の医療施設で不満をもっていることが分かった。今後は、在宅医療に適した人工呼吸器の改良、開発が望まれる。

⑨在宅で人工呼吸器を使用する際の問題点では、バックアップ用の人工呼吸器がないことや停電するかもしれない、設置場所がない、電気容量が不足、アース端子がないなど家屋や電気設備に対するものなどの問題を指摘する意見が多い。そのため、今後は、在宅人工呼吸療法の改善とともに人工呼吸器などのME機器を使用する家庭環境の改善も必要と考えられた。

『考察』

在宅人工呼吸療法の基礎資料を得るために、実際に在宅人工呼吸療法を実施している医療施設に対してアンケート調査を行ったが、今後、次のような改善が必要と考えられた。

1. 在宅人工呼吸療法を実施しているどの施設においても同じレベルで実施できるようなガイドラインの作成が必要と考える。
2. 医療チームの一員としての人工呼吸器メーカーの参加が望まれる。
3. 在宅医療に適した人工呼吸器の改良、開発が必要と考える。
4. 家屋や電気設備など人工呼吸器を使用する家庭環境を改善することが必要と考える。

『結語』

在宅人工呼吸療法は、自宅で人工呼吸器を使用する患者のQOLの向上を援助し、なおかつ安全を確保できるものでなければならない。そのためは、ハードおよびソフト両面での残された課題は多い。今後、今回のアンケートで得られた資料をもとに、よりよい在宅人工呼吸療法にしていかななくてはならないと考える。